

令和4年度 青森市第三セクター経営評価シート（第三次評価）
（職業訓練法人 青森情報処理開発財団）

評価項目	一次評価 (法人)	二次評価 (所管部局)	三次評価（青森市第三セクター経営評価委員会）	
			評価内容（評価すべき取組・助言・意見など）	評価結果※
目的適合性	概ね良好	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域で唯一のICT技術が学べる教育機関であり、地元企業への就職率が高いこと、新しい専攻科の導入、高校訪問やオープンキャンパスの開催回数を増やすなどの努力により定員数を超過する入学生数が確保できていることは評価できる。 ◆現在の入学生の多くを占める18歳人口の減少を見越して、高校の新規卒業生だけではなく、情報処理技術の習得を希望する幅広い世代の入学生を視野に入れる必要があると考える。 	概ね良好
効率性・効果性	概ね良好	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校や企業の訪問により地域ニーズを把握し、カリキュラム等に反映していること、国家資格取得率の向上や、高い就職率が維持されていること、新たな専攻科を設置するなど入学生の安定的な確保に向けた取組は評価できる。 ◆効率性・効果性の判断基準となる各種財務比率も改善・向上しており第三セクターとしての効率性・効果性に問題はないと判断している。 ◆令和2年度以降、入学生数が定員を上回り、効率的・効果的な法人運営が可能となった実績をふまえ、今後、この状態を継続するために、適正な定員の見直し（定員の増員）の可否を検討するべきではないか。 	概ね良好
組織運営の健全性	概ね良好	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織運営の健全性を担保するための各種規程が整備されており、当該規定に基づく組織運営がなされているとのことであり、組織運営の健全性については評価できる。 	概ね良好
財務の健全性	概ね良好	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ◆継続して経費削減に努めるとともに、学生募集施策に重点的に取り組んだ結果、令和3年度は収益の増加により赤字経営から黒字経営に転換したことについては評価できる。また令和4年度についても黒字の見込みであり、借入金もなく大幅な資産超過となっていることから、財務の健全性が大きく改善できている。 ◆入学生数が定員を上回ることが、黒字化達成のための重要な要素の一つであることを考えると、定員増加の可否を検討する必要があるのではないかと考える。 ◆平成23年以降令和4年まで国の財政支援を受けているが、当該財政支援（令和3年30,845千円）が打ち切られた場合の代替収入の確保策も法人内部で検討する必要があると、資産運用規程も設けた方がよいのではないかと考える。 	概ね良好
透明性	概ね良好	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ◆市の第三セクターとして情報公開に関する規程を整備しており、また、当該法人に関する各種情報（事業報告や決算報告など）については、インターネットも活用して積極的に公表するなど、その透明性の確保に向けた取組は大いに評価できる。 	概ね良好
自立性	概ね良好	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> ◆競争によらない市からの収入割合が低いこと、新しい専攻科の導入、高校訪問やオープンキャンパスの開催回数を増やすなどの取組の結果、入学生数の大幅な増加により自主財源が確保できていることは評価できる。 ◆地域全体として、この法人をどう位置付けてマネジメントをしていくかは、市の政策とも関連してくるが、中長期的な課題であると考えられる。 	概ね良好

※評価結果：概ね良好>改善の余地あり>大いに改善を要する

【青森市第三セクター経営評価委員会による総括的な所見】

- ◆継続して経費削減に努めるとともに、学生募集施策に重点的に取り組んだ結果、令和3年度は収益の増加により赤字経営から黒字経営に転換した。また令和4年度についても黒字の見込みであり、借入金もなく大幅な資産超過となっていることから、財務の健全性が大きく改善できている。
- ◆入学生数が定員を上回ることが、黒字化達成のための重要な要素の一つであり、18歳人口の減少による入学生数の減少を見越して、情報処理技術の習得を希望する幅広い世代の入学生の取り込みを視野に入れる必要があると考える。
- ◆すべての項目が「概ね良好」の評価となったが、今後も各項目についての維持・向上に取り組み、更なる成長・発展に努めることを期待する。